



坂東市



モーハウス

MOE
HOUSE

モーハウス代表 光畑由佳さんによる「坂東市の赤ちゃんとお母さん」のための
子育て応援コラムがスタートです！〈全7回シリーズ〉



プロフィール みつはた ゆか

NPO法人子連れスタイル推進協会代表理事
有限会社モーハウス代表
茨城県ユニセフ協会評議員
茨城大学社会連携センター特命教授 ほか



電車内での授乳体験をきっかけに授乳服の製作とお産・おっぱいをサポートする「モーハウス」の活動を始める。自社で実践する子連れ出勤は古くて新しいワークスタイルとして国内外から注目され、女性のチャレンジ賞など多数受賞。暮らしの質向上検討会など政府関係の有識者会議委員を務め、今年7月ペルーで開かれたAPEC女性と経済フォーラムでは、目覚ましい活躍をする女性起業家を表彰するベストアワードにノミネートされた。三児の母。

子育て応援 コラム Vol.1

社会とつながる子育て

はじめまして、光畑由佳と申します。このたび、坂東市とのご縁をいただき、連載を始めることになりました。

最近、「日本は子育てがしにくい国だ」ということをよく聞きます。先日、私が担当した大学の講義で、「子育てが大変だと思ふ人、手を挙げて？」と問いかけてみたところ、なんと全員が手を挙げました。子育ては本当につらいものなのでしょうか？

私は、モーハウスという会社と、子連れスタイル推進協会というNPO法人の代表を

務めています。

創業から19年、ママたちの負担を軽減できないかと、「授乳服や「子連れ出勤」など、ママが外に出て、社会とつながることのできるツールを提案してきました。この間、社会から離れて孤独な子育てをしているママたちにもたくさん出会い、そのママたちが、ほんの少しのきっかけで元気になり、子育てを楽しんでいる様子も見てきました。そんな経験を、大学特命教授という立場で、また少子化対策会議や国際会議などの機会にもお話ししています。

創業のきっかけは、私が見た小さな次女を連れて電車に乗った経験からです。電車内で空腹でぐずり始めてしまった次女に大変な思いをして母乳を与えました。

授乳という、当たり前の行為をするために、現代社会では周りの目を気にしなければならぬ不自然さを、なんとか解消できないか。そう思い、

日本にはほとんどなかった授乳服を作り始めたのです。

私たちが行っているのは、ママたちが家から外に出て、社会のかたがたとつながるのを支援することです。

なぜ、社会とつながることが産後のママたちを助けるのか。それは、外に出ればおのずとひとりきりで子育てをすることがなくなるからです。赤ちゃんを抱っこしてくれる人もいます、会話をする相手もいます。

おじいちゃん、おばあちゃん、ご近所のかたがた、といった先輩がたに頼るのもラクな子育てのコツです。

この連載を通じて、ママが楽に子育てをするコツをお伝えしていきたいと思っています。そして、ママだけでなく、パパ、おじいちゃん、おばあちゃん、ご近所に赤ちゃんがいるかた…ご家族や社会のかたがたみな、どのように子育てをサポートしていけるかも合わせて考えていきたいと思います。